

11/17 鹿児島県さつま町で鶴田町をPR

第3回さつま町産業祭 & JA 農業祭

当町と友好交流協定を結ぶ鹿児島県さつま町で「第3回さつま町産業祭 & JA 農業祭」が開催され、道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」が鶴田町のPRも兼ねた出店を行いました。

当町の物産ブースでは、旬を迎えた町特産品のスチューベンやりんご、りんごジュースなどを販売しました。当日は約12,000人の来場者で賑わい、当町のブースにも多くの買い物客が訪れ、持参した商品が完売するほど大変好評でした。



鶴田町の特産品を求め多くのお客さんが訪れました



東京青果卸売場でスチューベンのPRを行った関係者たち

11/30 東京で「つるたスチューベン」をPR

冬ぶどうつるたスチューベン トップセールス

町の特産品スチューベンの知名度向上を目的に、相川町長らが東京青果卸売場で5年ぶりにトップセールを行いました。

相川町長のほか、生産者を代表して「つるたスチューベン日本一推進協議会」の成田義弘会長が参加しました。トップセールスでは冬期は国産のぶどうが出回らない中、りんごの貯蔵技術を活用して冬でも安定して供給でき、おいしく食べられることをアピール。市場の仲買人らにスチューベンを配布しました。

12/8 冬空のもと もしもに備えて訓練

みどり町町内会 防災訓練

みどり町町内会（湊谷兼幸会長）が水害を想定した防災訓練を行いました。

この日の訓練にはみどり町の住民約50人が参加。住民たちは訓練が始まる前に、災害が発生した際に町内の要支援者を誰が手助けするかを確認しました。防災無線の放送が流れると、住民たちはみどり町集会所を出発し、町公民館までの雪道を歩いて、避難経路の確認を行いました。その後、県防災士会の三浦一郎防災士による避難時の注意点などについての講話が行われました。



雪道の中、公民館に避難する住民たち



2025年を迎えました。私は協力隊として1年9か月が過ぎ、任期は残り1年3か月となりました。1年目はぶどう販売会社を拠点として経理・営業・運営補佐をしながら、スチューベン栽培を通年で手がけました。

2年目は会社運営を中心に、農家さんの状況や要望をお聞きし、市場の動向調査や県外業者との新規契約など、全方位で動きました。今感じているのは「スチューベンはまだまだ伸びしろがある」ということです。

国内では「種なし」「皮ごと食べられる」「大粒」のぶどうが人気ですが、県外でスチューベンを食べてもらおうと「すごく甘い!」「おいしいから2日目も来た」という方も多いいです。他県の高級飲食店や多様な加工用原料として大口の相談も来ています。鶴田町特産スチューベンの可能性に光を当てたいと思います。



県営名古屋空港「FDA『空の日』フェスタ」で町の特産品や観光をアピール!



Facebook



Instagram

地域おこし協力隊の活動内容は、各種SNSでも確認することができます。



雪が降る中、りんごを持って登校する児童

12/9 我が家自慢のりんごを食べてみて

鶴田小学校 りんご一籠運動

りんご生産者を身内に持つ児童が給食用のりんごを各家庭から持ち寄る「りんご一籠運動」が鶴田小学校で行われました。

この運動は地元のりんごに親しみを持ってもらおう2006年から行われています。

当日は雪が降る中、防寒具に身を包んだ児童たちがりんごの入った籠を大事に抱えながら登校。玄関前に置かれたりんご箱に一つずつ丁寧にりんごを移し替えていました。この日は35人の児童が12箱分（240kg）のりんごを提供してくれました。

12/11 住宅火災での逃げ遅れをゼロに！

五所川原地域防災協会 住宅用火災警報器設置事業

五所川原地域防災協会は12月11・12日、町の高齢者世帯に住宅用火災警報器を無料で設置しました。

住宅用火災警報器の設置率は令和6年6月時点で、全国平均84.3%、青森県は80.4%です。中でも鶴田町の設置率は約61%で極めて低い状況です。この状況を改善しようと五所川原地域防災協会は鶴田町をモデル地区として、住宅用火災警報器設置事業を実施しました。

同会は住民に住宅用火災警報器の有効性などを説明し、高齢者宅の寝室などに警報器を設置しました。



高齢者宅に住宅用火災警報器を設置



最優秀賞の作文を朗読をする子どもたち

12/21 地域の繋がり大切に 貢献者を表彰

令和6年度 鶴田町社会福祉大会

鶴田町社会福祉協議会による「令和6年度鶴田町社会福祉大会」が行われ、町民や福祉関係者ら約200人が参加しました。

大会では、地域の社会福祉活動に貢献した個人や団体が表彰されたほか、昭和12年生まれの米寿を迎える方々へ米寿記念手形が贈られました。また、町の児童や生徒が日頃、福祉について感じたことや考えていることを書いた福祉作文コンクールの表彰式も行われ、小学校低・中・高学年と中学生の部門で最優秀賞に輝いた受賞者が作文の朗読を行いました。



今は自宅兼作業場でコツコツと鋭意選果、出荷作業を行っています。そんな中、「忙中閑あり」ということで先日公民館で行われた「親子でクリスマスケーキ作り」に参加させていただき、とても有意義な時間を過ごしてきました。

ケーキの出来栄もさることながら、それを運営していた「ジュニアリーダー」たちの姿に感心しきりでした。鼻ほじりながらテレビばあつかりみていた自分の中学生時代と比較するとその立派さ、堂々さたるや。そのような多くの若き人財がいることにとても嬉しくなりました。これからは「真っすぐに」伸びていって欲しいと老婆心ながら思った次第です。

さて、移住してきて2度目の冬。朝、積もった雪を見て日に日に無口になっていく妻が気になりますが無事、新年を迎えていることでしょう。今年もどうぞよろしくお願いいたします！



△選果をする葛西さん



△親子でケーキ作り中



Facebook



Instagram

地域おこし協力隊の活動内容は、各種SNSでも確認することができます。